

本当の幸せとは

岐阜市立加納中学校 3年

吉田 絵里加

あなたにとって、「幸せ」とは何ですか。お金があって、欲しいものが手に入ること、おいしいご飯が食べられること、大切な人と一緒に過ごせること。いろんなことが思い浮かんだと思います。では、「あなたは今、幸せですか。」と聞かれたら、なんと答えるでしょうか。

私は昨年八月に、岐阜市の夢プロジェクトに参加し、カンボジアを訪れました。カンボジアは「発展途上国」にあたる国で、経済や物資はあまり豊かではありません。およそ30年前まで続いた内戦の影響で、現在も国内に地雷が埋まっています。貧困を理由に、地雷が埋まっている場所のすぐそばでの生活を強いられている人がいます。また、今もなお、電気の通っていない村で生活している人もいます。カンボジアの子供の多くは、休日に働き、お金を稼いでいます。ここまでの話を聞くと、カンボジアは貧しくて後れている国。そして、そこに住む人はかわいそう。そう思った人も少なくないでしょう。私自身、カンボジアに行く前まではそう思っていました。しかし、実際に行ってみると、それは大きな間違いであることに気が付きました。道ですれ違った人は、他の国から来た知らない人であるにも関わらず、私たちに優しい笑顔を見せてくれました。子供たちにアメを渡すと、何度も何度も「オークン(ありがとう)」と言って、大切に握りしめてくれました。十分な教育環境が整っていない場所でも、将来の夢を聞くと、「医師になりたい。」と、ためらわず、はっきりと目を輝かせて言ってくれました。そして何より、彼らはずっと笑顔でした。決して「不幸」なんかではない。むしろ、物がありあふれていて小さな幸せに気付くことができない日本で暮らす私たちの方が、よほど寂しいような気がしました。誰もがスマートフォンに目を奪われ、言葉を交わすことのない日本では感じられないあたたかさがありました。「幸せ」は、物の豊かさとは直結しないということを感じました。私は、彼らから人と人とのつながりのあたたかさや大切さを教わりました。

日本は確かに経済や文化が発達している豊かな国であると思います。しかし、その分、小さな幸せを感じられていません。心の豊かさは、カンボジアで暮らす人々の方が、大いにあるのではないのでしょうか。

現在、世の中が混乱し、SNSが発達している日本では、心無い言葉が飛び交い、傷つけられている人がいます。しかし、自分の生活が苦しいからといって、人を傷つけるのは間違っていると思います。このような状況でも、今日は天気が良いだとか、数学の問題が解けたとか、どんな小さなことでも「幸せ」は感じられます。幸せになれるかどうか、幸せに気づけるかどうかは、すべて自分次第なのです。私自身、生活の豊かさに甘えて、小さな幸せをたくさん見落としてしまいがちですが、今の生活が送れることに感謝しなくてはなりません。そして、私は将来、医師として、世界の人々の命と幸せな暮らしを守っていきます。毎日学校に通って、授業を受けて、友達とたわいもない話をして笑い合って、でも、時にはちょっとゆううつな日もあって。

心豊かな、あの人たちは、当たり前だと思っていた日常は当たり前ではなかったということに気付かせてくれました。私の日常は、とても幸せなものであること、そして、あの日少女が目を輝かせて語った「医師になりたい」という言葉を胸に、私も彼女に負けないように、夢に向かって全力で「今日」を生き抜いていきます。